第39号 (2024年 12月号)

あらき通信

２０２４年　１２月　２０日 発行

(株)アラキ工務店　　編集･発行　荒木　勇

〒 615-0906 京都市右京区梅津高畝町 52-2

Tel 075-882-8668　　www.kyoto-araki.jp/

Fax 075-872-0223　　info@kyoto-kozai.com

年賀状じまいのお知らせ

弊社では年始のご挨拶として年賀状をお送りしてまいりましたが、 昨今の社会情勢や環境配慮への取り組みの一環として、 2025年よりはがきによる年賀状でのご挨拶を控えさせていただくことと致しました。今後は、ウェブサイトやSNSなどでの情報発信に努めてまいりたいと思います。

妙林寺の思い出

先日、嵯峨の法務局に行く用事がありました。

用事を済ませた後、『数十年前に、この辺に工事に入っていた現場があったな～』と思い、周りの景色を見ながらバイクに乗って探していると、嵐電嵯峨駅の手前の線路沿いで見つけました。 妙林寺と言うお寺です。

当時、大工見習2年目の頃で、森脇棟梁と秋田先輩と一緒に新築の仕事をしていた事を思い出しました。 破風下の懸魚、屋根箕甲を荒鉋で削る等の作業をさせてもらった若い頃を懐かしく思います。

屋根は銅板葺で、瓦の重さも影響無く、40年以上経つのに、棟から軒先迄綺麗なカーブを保って美しかったです！

嵐電に乗る機会が有りましたら皆様も見つけてください。

大工　足達　宗凡

若かりし頃、加工した懸魚が懐かしい

BS朝日「バトンタッチ」で紹介いただきました

2024年10月5日、BS朝日放送「バトンタッチSDGsはじめてます」という番組で当社を取り上げていただきました。こちらのページに、放映の様子をアップしています！→

『京都の町家を守る 職人たち』というタイトルで、当社若手大工さんが日々悩みながら仕事に励むドキュメタリー番組です。

なんと、30分の放送枠いっぱい使っていただき、感謝しています。当社の宣伝番組みたいでした！

朝の出勤風景も取材いただきました！

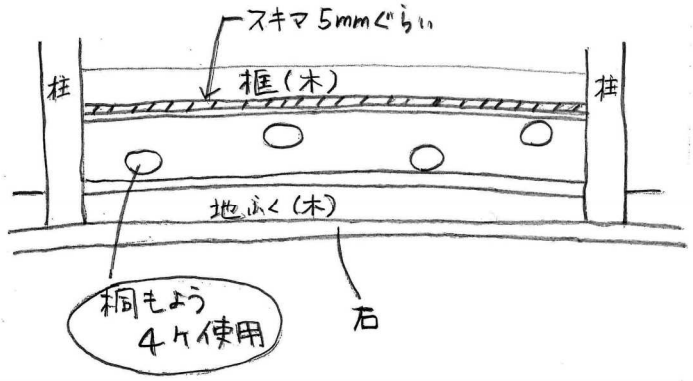
削ろう会 泰野大会に 参加

今年は、斉藤君･三谷君に加えて、若手女子の工藤さん、高谷さんも参加。 何と、女子の部で、当社入社2年目の工藤さんが優勝しました！　成績は、4μmでした。

左から 斉藤、三谷君、工藤、高谷さん

あらき古材倉庫の「らんま」を再利用

第一倉庫に、解体や改修して使用しなくなった欄間をたくさん在庫しています。 続きの和室が少なくなり、なかなか利用する機会がなかったのですが、床下の風窓に再利用する事にしました。こんなイメージです。



サッシの両側が鎧張りで、サッシの下にある地覆と框の間にはめ込みました。 桐の模様は5つありましたが、4つを使用しました。もちろん、鼠が入らないように、後ろから網を張っています。

色が濃くなり、少しゴージャスになったように思います。

また、面白いものがみつかりましたら、ご紹介します。

荒木 智

大雨被害・防災について

2024年10月半ば頃から京都府園部市にて工事させて頂いている現場で起こった出来事をご報告します。

弊社から車で1時間程の所で、山の麓に建っている1軒家です。 敷地は広くて、乗用車が10台は駐車出来るほどです。 11月2日(土)のお昼頃、作業中の大工さんから「現場が水没しそう」と1本連絡がありました。

迫りくる土砂

直ぐに現場に向かいました。京都市内にいた私は、雨がきついとだけ思っていましたが、現場に近づくにつれて段々不安感が増していました。 山道の側溝は土砂水で溢れかえり、山木の枝、石等が車道に出てきていました。

南丹 民家に土砂迫る

住民「身の危険感じた」

裏山から流れる川があふれ、土砂と水が民家の庭を浸した(2日午後3時10分・南丹市園部町)

11月3日付 京都新聞より

無事に現場に着きましたが、天然芝の駐車場は泥水で溢れかえり、社用車のタイヤも半分埋まる程水位がありました。

家裏にある、山の水が流れている水路も物凄く洪水していました。この時間帯(14時頃)水位と降水量が予報のピークでは無かったので、現場に水がなだれ込んできて、床下浸水を起こさないかと心配でした。

これからどうしよう。何か出来る事があるだろうか、と考えていた時に、消防の方がやってきました。「直ちに現場から避難して下さい」と言われ、大工さんと一緒に現場を後にしました。来た道を戻ろうとしましたが、大雨の影響で山道は木や石が道を塞いでいた状態だったので、少し遠回りをして安全な道で帰りました。

災害に無縁だった私にとっては衝撃でした。現場を監理する者として、山の麓など土砂被害が出そうな場合は、前もって避難経路を考えたり、近くの避難場所を調べておく、土嚢袋を多めに置いておく等、頭の中で整理する必要があるなと改めて感じました。

現在は、京都府の土木事務所の方が庭の泥や木等の復旧作業をしていただいています。

これを機に、今一度防災グッズの確認をし、もし同じような事が起こった場合も冷静に対応していきたいと考えております。

現場監督　島田 将也

立ち往生する大工さんの車

大工技能研修 in 三木

今年は現場監督の嶋林君がプランニング。大阪木材仲買会館→竹中大工道具館→鉋刃の（株）常三郎さん→ヨドコウ迎賓館→産廃処理の（株）ヒラヤマさんの順で回りました。

こちらのページに、放映の様子をアップしています！↑↑

火入れ体験中の栗木さん

木賊張りの張替

前回に続き塀のお話です。 木賊張りとは、竹や細い板を隙間なく並べて貼る、塀などに見られる建築技法のひとつで、見た目が植物のトクサに似ているため、そう呼ばれるようになったとの説があります。

現在改修中の町家の木賊張りの塀、全体的に色あせや雨染みがひどく、ところどころ抜け落ちもあり、以前、雨漏りにより朽ちてしまった箇所に至っては、すでに焼杉板に張り替えていましたので、当初は、全体を焼杉板に張り替える計画をしていました。

写真1：下地の状態

写真2：ルーフィング張

でも、手間のかかったせっかくの木賊張り、なんとか残せないものかと、竹の表面を洗い屋さんに洗ってもらった所、驚くほど綺麗になったので方針転換、傷んだ箇所を差し替え、焼杉板に張り替えていた部分を木賊張りに戻すことになりました。

下地をやり直し、側を削った半割の竹を縦に並べ、皆折釘（または貝折釘）と呼ばれる火造りの手打ち釘で下地に止め付けます。真壁納まりのため、現場でさらに削り合わせて柱間にぴったり納めます。

今回は、既存の塀にあわせて、釘が見える納まりとしていますが、お茶室などでは、竹を相欠きにして組み、釘を見せない仕上りとする「本木賊張り」と呼ばれる手法も使われるそうです。いったいどれだけの手間がかかるのか想像もつきません。

町家を直していると、伝統的な意匠や技術に触れる機会が多くあります。

壊して新しくする方が早くて簡単な事も多いですが、一度失ったものは二度と手に入らないこともありますので、残せるものは残すという判断も、大切ですね。

現場監督　長崎 道

写真3：木賊張中

写真4：完成♪

NHK 京都「京いちにち」に大工さんが出演

2024年7月24日、NHK京都放送局『京いちにち』という番組に、当社若手大工さんが沢山出演させていただきました。こちらのページに、放映の様子をアップしています！→→→

6分間でしたが、生放送という事でだいぶ緊張があったようです。

インタビューに答える斉藤くん

学校もぽつぽつ行ってます♪

京都美術工芸大学の高田光雄先生が「京町家再生論」という講義をされていると伺ったので、1コマ授業に邪魔して、町家再生現場の改修事例を説明してきました。

学生さんたちは、座学ではわかっているものの、実際どうやって改修するのかは経験がありません。 基礎や構造をどう直すかという点を中心に、大量の写真を使って説明しました。

ちょっとでも町家に興味をもってくれたらなと思います。

京町家の小さなお庭

今年の夏に竣工した町家に小さなお庭を作りました。

現場監督の長崎さんから、「和室に座って眺めたときに見栄えがするように石を配置してね」と言われ、少し左に寄せてみました。大きな石と小さな石が仲良く寄り添っているようにみせました。 これからも腕を磨きたいです。

植木職人　安田 晶紀

健ちゃんまつり in 梅小路公園

2024年10月27日に開催された建ちゃんまつり。

今年も築山棟梁と、大工見習の高谷さんの2人で参加してきました。 この日のために築山棟梁は、休みを沢山潰して、「体験ミニ椅子づくり」の材料準備に追われていました。ご苦労様でした。

築山棟梁指導中♪

槍 鉋

牛田工場長が、前任の大空工場長から譲り受けた槍鉋（やりがんな）。まだこの世に「鉋（かんな）」という道具が発明される前に、斧、釿、まさかりなどで荒く削った後の仕上げ削り用として用いられたかんなです。

先が槍のような形をしています。法隆寺の柱などが「槍鉋」を用いて削られた事はよく知られています。

この槍鉋、枝の部分等を手入れして、生まれ変わりました！（真鍮部分も変色していましたが、会社にあるものを利用し、磨いて元の風合いに戻りました♪）

加工すると表面が独特の雰囲気になります。 槍鉋仕上をご希望の方はお申し付け下さい♪

事務　北岡 真由美

現場監督の柴田です！

はじめまして！ 10月からアラキ工務店に仲間入りした現場監督の**柴田 秀俊** と申します。

生まれは茨城県、趣味はカメラや卓球、そしてシューティングゲームです。

これまで関東・関西を中心に大型建築やリフォームなど、さまざまな現場を経験してきました。

私のモットーは「ちょうどよい我儘（わがまま）なやつ」です。 いつも明るく元気なムードメーカーとして、皆さんと楽しくお仕事をしたいと思っています！　よろしくお願いします！

住まいについていろいろな話　第35回「住宅に住み付く厄介者 2 白蟻」

白蟻被害は見えないところが大部分で、目に見えるところに出てくるとその裏側はかなり被害にあっていると思われます。 私の経験を踏まえて、注意喚起したいと思います。

まず写真をと思いましたが、本物の白蟻の写真はあまり気持ちのいいものではないので、省略します。 見たい方は右のQRコード（提供：みんなの白蟻駆除やさん）をクリックしてください。

まず、白蟻の種類ですが　日本では4種類の白蟻が生息しています

・ヤマトシロアリ　もともと日本に生息していた白蟻です 全国分布です
・イエシロアリ　中国から入ってきた外来種 関東以西で本州南側に生息
・アメリカカンザイシロアリ　外来種。家具などについて入ってきました　本州に生息
・ダイコクシロアリ　奄美大島以南で沖縄や小笠原諸島に生息

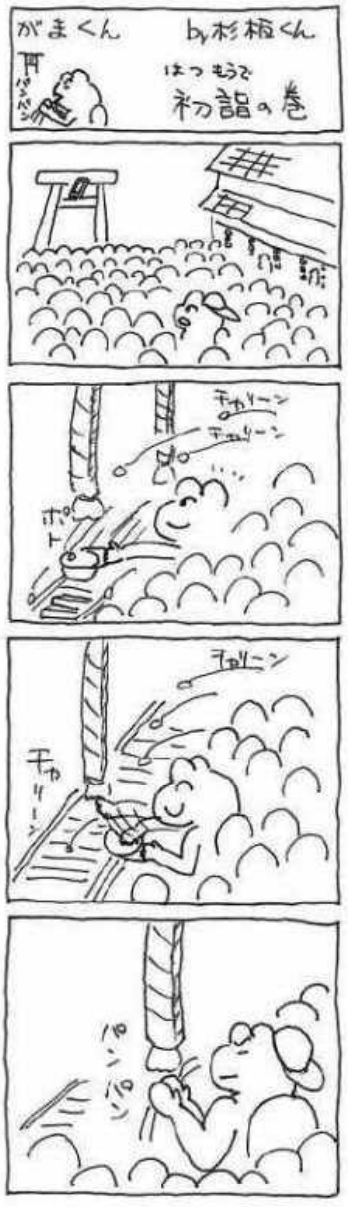
新築の場合、上棟後、1階の床の骨組みを作った時点で、床下に白蟻除けの薬液を吹付けます。この時業者以外は外に避難します。 現在噴霧している薬剤は人体には影響はないものとされていますが、何故かみんな外に出ます。また床をやり替える改修や修繕時にも同様の薬剤噴霧を行います。

白蟻については必要以上に怖がることもないのですが、一番の大敵は雨漏りです。 雨漏りがあり知らないうちに家の柱や梁を濡らして床下まで到着すると、その水の流れを伝ってシロアリが上がってきます。 少しでも変な兆候があればすぐに相談して下さい。

食材は木材、紙類（本/段ボール）、畳など植物由来の物などで、濡れたり湿っていると食いつきます。あるお宅で長期間本を入れた段ボール箱を縁側に置いていて、段ボール箱を持ち上げると、底から食われて、本まで食っていたということがありました。時々は動かして縁側と箱の底を乾燥させれば食われなかったと思います。 原因は縁側と段ボールの間の湿気ですね。

また、縁側の外側についている縁框（縁側の床を支えている床梁材）が、庇の不具合で左端から中央まで濡れた状態がずっと続いていました。 そうすると。白蟻が左の端から入り込み中央まで食べて、そこから先は乾燥しているので中央でUターンして巣に帰る行動をしていました。中が空洞になっているか調べたので間違いはありません。水に濡れるか湿気ているものは食害にあい、乾燥しているものは食べないことがよくわかりました。

白蟻と無関係の漫画♪



白蟻の巣別れも経験しました。 京都市では毎年5月GWの間、良く晴れてそのあと雨が降ったあくる日に新しい女王アリが巣の半分を引き連れて新しい巣作りに飛び立ちます。毎年ほぼ決まっていて、この大群が飛び立つのを2回ほど見ました。白蟻とはいえ壮観でしたね。大群の羽蟻が飛び立つのですが、地面につくと羽根が落ち地中に潜り込みます。 私の古い家で白蟻が出て、ほとんど外に飛び出したのですが一部が窓から家の中に入り、畳の上に着地して大量の羽根が落ち、その上をシロアリがうごめくという何とも形容の仕様がない光景を見たのを覚えています。もう二度と見たくないです。

ただ大きな話では、地球環境的には白蟻がいないと枯れた木材の始末を誰がするのかということで、大事な生き物なんですがね。

村上 幸男

大きな現場が相次いで竣工！

工事に1年以上かかった大きなお住まいが、2軒相次いで竣工しました。

1軒は岡崎、もう1軒は船岡山。工期が長いと、先が見えないので、本当に仕上がるのか心配になります。 でも、大工さんや協力業者さんのお力で無事しあがりました。

で、主要メンバーを集めてご苦労さん会を開きました。
みんな、これからもよろしくね！

↑A邸 左官屋さんも一緒に

↓K邸 水道電気屋さんも

京都まちやレコード

以前に出町商店街近くで、京町家の改修工事をさせて頂いたお家についてお話しします。

その京町家は、江戸時代文化8年(1811年)から建っていたそう。 正面から観た外観に、軒先に幕掛の垂壁、入口の右側に貴重なばったり床几と出格子が並んでいて、昔からの雰囲気をそのまま残されており、とても風情があります。

その外観を眺めているとなんだか落ち着きます(古い町並みを見学するのが大好きな私にはもう堪りません)。

そして、玄関から中に入って上を見上げると板張りの大和天井、建具には再利用の開口穴付きの舞良戸(まいらど)、壁上部に提灯棚があり提灯が飾られています。隣のミセノマには出格子の外に仕舞屋格子(しもたやごうし)や蔀戸(しとみど)が施されてあります。

完成後に、ご近所の方から昔からの懐かしい建物の雰囲

気を残してくれてありがとうとお声を掛けて頂いた時、この仕事に携われる事に嬉しく思いとても誇りに感じました。

そんな京町家にお住まいのお客様より、今夏、工事のご依頼があり伺いました。「レコード店を開きたいので、① レコードを展示する棚(ラック)、② 暖簾掛け、③ 壁に木製レコード展示用レールを作成して欲しい」との事でした。

お客様からお話を伺い図面を作成し、何度かお打合せを重ねながら進めて、お客さんのご希望のイメージをいかに大工さんにしっかりと伝えることができるか考えました。

そこでスケッチ図を書き、大工さんに理解してもらえるように工夫しました。大工さんと相談してアドバイスを訊きながら、より良い棚(ラック)等を引き渡す事が出来ました。

これからも「アラキさんにやってもらって良かった」と喜んでいただける様に、お客さんの気持ちに寄り添えるような現場監督でありたいです。

現場監督 嶋林 貴之

公式facebook

2025年4月の建築基準法改正について

来年、2025年4月に施行される予定の建築基準法の改正では、住宅業界や消費者に大きな影響を与える2つの重要な変更点が導入される予定です。それが「4号特例の縮小」と「省エネルギー基準の強化」。これらの改正は、住宅の安全性や省エネ性能を向上させ、持続可能な社会を目指すためのものであり、消費者にとっては住宅選びやリフォームの際に重要な要素となります。

4号特例の縮小　まず、「4号特例の縮小」についてです。4号特例は、小規模な住宅や建築物において、建築確認申請時の構造計算を免除する制度でした。 具体的には、木造2階建て以下で延べ面積が500㎡以下の建物が該当し、設計や施工者にとって手続きを簡素化する役割を果たしていました。 しかし、この特例によって一部の建物で安全性が十分に確保されていないケースも見られました。 特に耐震性能の不足が問題視され、実際に発生した災害の被害状況から特例の見直しが求められるようになりました。

今回の改正で4号特例が縮小されたことで、木造2階建ての住宅でも一定の条件下では構造計算や詳細な設計確認が必要となります。これにより、建物の安全性が確保され、特に耐震性能が向上することが期待されます。消費者にとっては、家族が安心して暮らせる安全な住環境を手に入れることができますが、その一方で、設計費用や建設費用が増加する可能性もあります。これによって住宅購入の初期コストが上昇することが懸念されますが、安全性という重要な価値を考慮すると、長期的には良い投資といえるでしょう。

省エネルギー基準の強化　次に、「省エネルギー基準の強化」についてです。 日本は気候変動対策として温室効果ガス削減に力を入れており、その一環として住宅の省エネルギー性能を高める必要がありました。 今回の改正では、新築住宅や大規模リフォームにおいて、省エネルギー基準への適合が義務化されました。具体的には、住宅の断熱性能の向上やエネルギー効率の高い設備の導入が求められます。これにより、室内の冷暖房効率が向上し、光熱費の削減が期待されます。 消費者にとって、省エネルギー性能が高い住宅は、快適な住環境を提供し、冷暖房の使用を抑えることで光熱費の削減につながります。初期の建設費用は増えるかもしれませんが、長期的に見ればエネルギー消費の削減によってその費用は回収されることが多く、家計にとっては経済的メリットがあります。また、環境への配慮という観点からも、省エネ住宅は社会的な価値を持つ選択肢です。消費者が環境に優しい家に住むことで、持続可能な未来を築くことに貢献できます。

一方で、建築業界にとっては、省エネルギー基準の強化に対応するために、新しい技術や施工方法の導入が求められます。また、新築はもちろん、大規模リフォームにも確認申請書の提出が求められ、着工や竣工に今まで以上に時間を要する可能性があります。これらには追加のコストがかかり、中小規模の工務店や設計事務所にとっては負担が大きくなることもありますが、業界全体の技術力が向上し、結果として高品質な住宅が増えることが期待されます。

まとめると、2024年4月の建築基準法改正で導入された「4号特例の縮小」と「省エネルギー基準の強化」は、消費者にとって住宅の選択やリフォーム計画を行う際に重要な要素です。これらの変更により、住宅の安全性と省エネルギー性能が向上し、安心で快適な住まいが増えることが期待されます。初期コストは増えるものの、長期的な家計の負担軽減や環境への貢献というメリットを考慮すると、これらの改正は消費者にとって価値のあるものといえるでしょう。

現場監督　小野 敏明

鑿井(さくせい)工事

今回は普段の工事ではなかなかお目に掛かることのできない、さく井工事(井戸を掘る工事)のご依頼を頂きました。

井戸を掘る工事をしたのは10年以上前のこと。情けないことに、どのような工程で進めたのか、殆ど覚えていないため、とても新鮮な気持ちで工事に挑ませて頂きました。

現場は左京区の白川に面した土地です。 全面改修工事を計画している建物で、できれば飲料水として井戸を新設したいとのご要望でした。 井戸屋さんに周辺の井戸水の状況をお聞きしたところ、「飲んでも問題のない綺麗な水が出る可能性が高い」という情報を頂きましたので、割と安易に考えていました。

掘削開始

工法はエアハンマー方式といい、コンプレッサーから送った圧縮空気でピストンさせ地面を強く打撃しながら掘削します。始まってまず感じたことは、とてもとてもうるさいです。事前に近隣挨拶しておいて良かったです。計画では30m程掘れば綺麗な水が出るという想定でスタートしました。順調に堀っていきます。10mを超えたところから徐々に掘るスピードが減速し、あれっと思っていると管から排出される残土の色もグレーに変わり始めました。

岩盤の層

井戸屋さんに聞くと、どうも岩盤に当たったようで、なんと「一度当たると過去の経験から水が出たことはほぼ無い」と、なんとも厳しい発言。現場は一気に重たい空気に包まれました。しかし、ここで諦めるわけにはいきません。水がでるよう心の中で祈りながら見守りましたが、その後30mまで掘り進めても、やはり水が出ることはありませんでした。

そこで井戸屋さんから、「今度は場所を変えて、敷地の表側、白川に近い方を掘ってみてはどうか」との提案がありました。

掘削場所を変更

道路側へ機械を設置し直し再度チャレンジです。こちらも同じように掘っていくと、なんとまた10m程で岩盤に当たってしまいました。前回よりも更に重たい空気が流れます。ただ、掘削の感じから判断すると岩盤といっても少し土や空洞が混じったような状態だったので、まだわずかな期待は持てるとのことでした。この位置で水が出なければもう後がありません。 内心もう無理かもという気持ちもありましたが、なんとか予定の30mまで掘り進めてもらうことに。

井戸水が！

やりました。井戸屋さんが予想していた30m近くから急に水が出始めました。岩盤の隙間に走っている水脈に当たったようです。井戸屋さんも岩盤に当たってからなのでとても驚いてられました。現場の空気も一気に変わり、皆の顔も笑顔に。 本当に良かったです。 心配されていたお客様にも良い報告ができます。これで本業の改修工事に掛かることができます。この流れに乗って全力で挑ませて頂こうと思います。

今回感じたことは、さく井工事は望んでいない結果に終わる可能性もある、ギャンブル性の高い工事だということです。

次回依頼があった際には、事前にリスクについてしっかりご説明しなければならないと思いました。それにしても良かったです(笑)。

現場監督　米沢 和也

最後に一言

なんと、またまた8ページ！　盛りだくさんの内容になりました。 相変わらず忙しくしているので、会長も草葉の陰で喜んでいるかと思います。

現場監督が増えて、今まで僕がしていた現場仕事を割り振れるので助かっています。 この機会にまたNPOでもやろうか、いやいや若い頃みたいに毎週日曜日やると体もつかななどと悩み中です。でも、何か新しい事に挑戦したいと考える今日この頃です。　荒木 勇